



花巻市長寿福祉課の講義

花巻中央地域包括支援センターの担当者から、再三再四にわたるきめ細かなご指導をいただき、ようやく令和2年9月1日から実際の支援活動に入りました。

介護や生活支援を必要とする高齢者や、単身生活者のみの世帯が増え続けております。『ちょっととした手助けで、日常生活が少しでも楽になって、安心して住み慣れた地域で暮らし続けるために』

見来会は安心してできる楽しい地域を目指したいのです。

一日市の今

一日市自治会長 大原 健

コミュニティ協議会様より「こぶし」に掲載するのでと原稿依頼があった。本年度より自治会長になったばかりであり地区民の方々が一堂に会し総会をしておらず、活動内容に関して紹介を、と言われても戸惑うばかりであるが個人的な雑感を述べようと思う。

昭和40年代頃は商店で埋め尽くされた様々な店が立ち並び、にぎわいを見せており活況を呈してあった。路線バスも湯口(鍋倉)方面、花巻温泉方面、

宮野目(似内・葛)方面、石鳥谷方面と多岐にわたり、運航しており一日市に来て買い物をして帰る方は多かった。と記憶している。子供心に向こう町(上町方面)に出掛けるというのは稀であり、お祭りの時や何か大きなイベントがない限りこつち町(花北地区)から出ることもなく生活していたような気がする。

それから約半世紀、モータリゼーションの発達、商店の大型化が進み、また商店主の高齢化等の要因が重なり、一日市の様子も激変してしまふ。

現状を紹介すると、居を構えている世帯、約45世帯、約1000人で構成されている。高齢の方は約40名、18歳以下は数名と寂しい状態となっている。

地区対抗の運動会や花巻神社火防祭での綱引き大会等、単独チームが構成できず、他地区より助っ人をお願いして何とか参加させていただいている。地区単独での行事は、老人クラブ、青年部、商店街振興組合すべての方々が

関わって行ない、何とかこなししているが、花巻まつりの山車運行時の一日市にも割り当てられた当番日があるが、店も構えて



ひといち朝市(一日市商店街)

いる方も多く前述の理由で、他地区からも小言をいただいている。残念でない。

しかし、一日市の方々は、長年ここで暮らしており、人の出入りが少なく、家族構成等全てを知り尽くしおり繋がりを持っていてるので、緊急非常時でも何ら心配していない。

コロナ禍で考えたこと

坂本町自治会長 鎌田和朗

コロナ禍で何にも出来なくなってしまう。毎年行っている活動をはじめに昨年から始めた親睦会も出来なくなってしまう。日常のコミュニケーション、ケイションさえ取りにくくなり、ゴミ捨ての日にも見かける人を遠くから確認して安心するだけ、朝の挨拶も小声で交わして3密を避けている状態です。

コロナ禍がいままで培ってきた地域の互助の精神を萎縮させてしまうのではないかと不安を覚える時もありました。

敬老会も自粛が決まり、せめて記念品は長く自治会に協力していたいただいた御礼の言葉を添えお会いしてお渡ししたいと思ひ3密を避けなが



ら戸別に訪問をさせていただきました。その際に訪問先の皆様から励ましの言葉をかけていただき私の方が元気を頂きました。坂本町自治会の互助の精神は諸先輩の努力で受け継がれていることを改めて学ぶ機会となりました。

今期中にコロナ禍で不便、苦痛を覚えている方々が少しでも元気になれる時間が持てるような親睦会の開催を自治会として模索しています。

また自治会を引き継ぐ次世代の為に負の資産を取り除くことも重要な役目です。

直近の課題としては坂本稲荷神社の敷地に自生する高さ10mを超す数本の老木の除去です。

隣接する県道と近隣住民の安全と安心を考えれば早急に除去の作業を行う必要があります。

大きな出費のかかる事でもあり住民皆様から意見を頂きながら適切な作業を遂行していきたいと思ひます。